

ブルーンスター



この学年通信の名前は2組の が考えてくれました。この青学年が星のように輝き、学校を引っ張っていただけますように。そしてブルーンスターはメインの花ではなくて、脇役的な存在。輝くだけではなく、裏でも支えていける学年になりますように…。花言葉は「信じあう心」。クラスメイトを信じながら、行事や受験に向かって進んでいけますように…。という思いが込められています。



10号で差し込んだ紫色の紫陽花のイラスト。もうすぐ梅雨入りの知らせも届く季節となりました。紫陽花の花色はピンクや青が多く、白なんて紫陽花もあります。そして、去年はピンクの花が咲いていたのに、今年は青くなっただけの話もよく聞く話。これは紫陽花が、植えられている土壌成分によって花色を変えるため。日本の土壌にはアルミニウム成分が多く含まれ、元々アルミニウム成分を体内に持たない紫陽花は、土壌からアルミニウム成分を摂取すると、体内のアントシアニンと結合して青い花を咲かせます。雨量の多い日本では、土が酸性になることが多く、その為に土中のアルミニウム成分が溶け出して吸収されやすくなります。この為、酸性土壌では青い紫陽花が咲き、アルカリ性土壌ではピンク色の花色を見せると言われるわけです。しかし、実際にはもっと多くの要因が関係しているわけですが、大まかな判断

来週の予定



基準にはなりませんね。また、土壌のPH値に関わらず、花色が決まっている種もあります。10号は鮮やかな紫色の紫陽花のイラスト、12号はピンクの紫陽花のイラストを掲載しましたが、みんなには白黒印刷で伝えられないのが残念です…。

日	曜	学校行事等	持ち物・提出物
17	月	50分授業×6 ①学活（生活アンケート・修学旅行下総決定） 水泳指導開始	白衣
18	火	期末考査1日目（保体・技家・数学）	
19	水	期末考査2日目（音楽・英語・国語）	
20	木	期末考査3日目（美術・社会・理科） 掃除なし 専門委員会 13:15~ 修学旅行実行委員会 「よむYOMUワークシート」	
21	金	50分授業×6 ⑥総合（部屋係会・部屋会） 3年生学力テスト 避難訓練	白衣持ち帰り

- ※ 来週は定期考査。提出物がある教科があります。テストの点数だけで成績がつくわけではありません。期日を守って、内容のある提出物にしてください。17日提出の教科に注意！！
- ※ 21日（金）の学力テストでは定規、コンパスを持参してください。

定期考査時提出物一覧

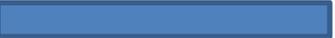
教科	提出物	提出日
数学	リピート学習③ P27~64	6月17日（月）の授業
国語	学習ワーク	6月17日（月）までに○を付けて提出
保体	保健資料ノート	6月18日（火）
技術	ノート（プリントを貼っておく）	6月18日（火）再登校なし
英語	Our Project 7発表原稿	6月19日（水）
社会	公民ノート（必須）、研究ノート（希望者のみ）	6月20日（木）
理科	ノート	テスト前後に回収

提出物を回収した各係の人は、必ず出席番号順に並び変えて提出をしてください。

裏面に続く

国語聞き取りテスト満点者（敬称略）

随分前になりますが、5月27日（月）に国語の聞き取りテストが行われました。放送で流された内容をメモに残したりしながら、放送後の質問に答えていく問題です。相手の話を聞き取る力が試されるわけです。まや、今学期からは『よむYOMUワークシート』なる読解力向上を狙ったプリントも配布されています。このプリントには社説などの文章があり、その文章を読み取る力を向上させるべく数問の質問があります。これは単に国語力だけの向上を狙ったものではなく、読解力を向上させることで、数学の文章問題を読み解く力も上がるというわけです。受験生として、相手の話を聞き取る力と読解力。面接にも役立ちます。ぜひ伸ばしてほしい力です。今回の聞き取りテスト満点者は10人。結果を見ると、人の話聞いて無いなあ…と思う人はやっぱり点数が低い傾向がある（苦笑）。受験生、先ずはひとの話をしっかり聞くことから始めてみては。

1組  2組 
3組  4組 

学年主任のつぶやき

みんながテスト前だと焦っているという事は、先生たちも『テスト作らなきゃ…』って事ですし、みんなと同じで現実逃避に走ろうとする自分をどうにか抑えている。勿論自分はまだテストに着手していない。皆には計画的にと言っておきながら恥ずかしい限りだが、今週末に大会会場となる為、それなりに時間は確保できているので計画的と言えば計画的。今は総合体育大会の真っ只中。我がバスケット部も、お陰様で勝ち上がっている。今週末は練習試合では分が悪かった相手。相手に向かっていく気持ちが強い時には無類の強さを発揮するものの、弱気になるととんでもないチームになるのでどうなるものやら。目標を叶えるためには心の強さが必要になってくるもの……。

先日の試合会場には、前任校の教え子も応援に駆けつけてくれた。時間がある時には、本校の練習にも来てくれてアドバイスをしてくれている。二人ともインターハイに出場している実践学園で競技を続けていたので、その指摘も適格だ。人数の少ない我が部にとって、練習相手に来てくださるOGの人達はまさしく生きた教材で、自分が想定している相手と同じような動きを依頼すると、同じような動きで相手をしてくれるので、どんな練習試合をするよりも勉強になる。忙しい時間をぬって練習に来てくださる人達に恩返しできるとすれば、一つでも多く勝ち上がって、自分たちの成長を残らず発揮することだろう。バスケットボール部に限らず、今週末も来週も大会は続く。2年間と少しという長い時間。一つの競技に打ち込んできた人ほどその思いは強いはず。一人一人がコートで輝けるように祈っています。

もうすぐ30年に渡る指導者としての時間の中で、異動して一緒に入学した学年は必ず都大会に行っている。1校目の亀有中では顧問のなり手がおらず、2年生は募集していなかったため、赴任した時には3年生しかいなかった。顧問を引き受けてくれるならと1年生を募集させてもらってスタートした指導者の道。その1年生が3年生となり、葛飾区で男子は優勝も経験し、女子は準優勝で都大会へ。次に赴任した伊興中、東葛西中でも、一緒に入学（赴任）した1年生が3年生の時に都大会に出場している。勿論、そのほかの代でも都大会には出場しているけれど、不思議とこの法則は学校が変わる度に結果に繋がっている。このジククスは、今回も生きているのか。この代が都大会に行けなかったら、自分の指導者人生の中で初めてのことになる。プレッシャーを与えるつもりはないけれど、これを聞いて『やってやる！！』となるのか、『え〜〜…』となるかで、試合が始まる前から結果はあらかじめ決まっているのかもしれない。

そんな中、6月8日（土）に令和9年度からの全国大会廃止競技がプレス発表された。Yahoo!newsの1面にもあったから見た人もいるかも。令和9年度の近畿ブロック全中から、水泳競技、相撲、ハンドボール、ソフトボール（男子）、体操、新体操、スキー、スケート、アイスホッケーの9競技が開催されなくなる。実は令和3年から全国校長会長（日本中体連会長）の依頼を受けて諮問会議が発足した。自分も競技部長を代表してこの会議の委員として出席し意見を述べさせて貰った。継続可能という意味では廃止と言えども、NF（中央競技団体）主催大会を残さなければ、競技人口の減少に歯止めはかけられないだろう。オリンピックで多くのメダルを取り、話題に上がる水泳競技や体操競技と言えども、部活動の加盟率は非常に少ない。部活動の地域移行が始まる前から、こういった競技は部活動ではなくクラブチームの活動が主流となっていた。応援に駆けつけてくれた教え子は教育実習も終え、7月に行われる教員採用試験に向けて頑張っている。教員になったら顧問になりたいという。部活がやりたい生徒と、教員になったら顧問になりたい学生。両者にとってより良い未来があればいいと願う。